



SESERAGI—MISHIMA
ROTARY CLUB
WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2012～2013年度 RI会長 田中 作次
RIテーマ Peace Through Service 奉仕を通じて平和を

クラブテーマ「チ・カ・ラを出そう」会長 太田政人

副会長 山本良一 幹事 石井司人

第1104回例会
2011.08.31(金)晴

司会:久保栄子君 指揮:石井和郎君
ロータリーソング「奉仕の理想」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央町ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ 検索

例会場 ブケ東海三島

TEL.055-984-0120
毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 太田政人君



本日は、ガバナーの公式訪問ということで三島西ロータリークラブとせせらぎ三島ロータリークラブの合同例会です。高野ガバナー、連日の猛暑の中遠方よりお越し頂きありがとうございます、ガバナーには後ほどたっぷりとお話を伺いたいと思います。

さて、今月はメダルと共に大きな感動を与えてくれた、平和の象徴であり平和の祭典という名の下に行われたロンドンオリンピック、広島、長崎原爆平和記念式、終戦記念日、シリアの悲惨な内戦等、平和について考えさせられることが多い月でした。

田中作次2012-2013年度国際ロータリー会長はテーマとして『奉仕を通じて平和を』を掲げ次のようにのべています「平和という概念は、人によって、文化によって異なります。心の平安や家族の幸せ、満足感を指す場合もあるでしょうし、人間の基本的ニーズが満たされた安全な状態を指すこともあるでしょう。平和をどのように定義するにせよ、それは奉仕を通じて達成できる目標です。」平和をどのように定義することは困難ですが、平和を考える上でのひとつの目安として、オーストラリアのシドニーに本部があります「経済・平和研究所」という民間の国際研究機関がこの度158の世界各国・地域の平和度ランキングを発表しましたのでそれを引用してみました。1位は2年連続でアイスランドでした、デンマーク、ニュージーランド、カナダと続き日本は5位でした、15位ドイツ27位台湾29位イギリス40位フランス

42位韓国88位アメリカ89位中国153位ロシアでした、軍事費が多いとランクが下がるようです。

では平和であれば幸福でしょうか、幸福とは内面的心理的な概念ですが幸福度ランキングというものもあります、これもひとつの目安として、イギリスのレスター大学のホワイト博士のランキングを引用してみます、1位デンマーク2位スイス3位オーストリア4位アイスランド5位バハマ23位アメリカ35位ドイツ41位イギリス62位フランス82位中国90位日本167位ロシアとなっています。押並べて平和度の高いところは幸福度も高いとの結果になりましたが日本だけ平和度5位と幸福度90位と非常に乖離した驚くべき結果になりました。平和なのに幸福を感じないことは単純ではなく色々な要因が絡み合っているのでしょうか、深刻な問題です。因みにブータンは平和度19位幸福度8位でした。

ランクデータの羅列でしたが会長挨拶とさせていただきます。

ようこそせせらぎ三島
ロータリークラブへ

RI第2620地区ガバナー

高野孫左エ門君(甲府RC)

五味 晃君(地区副幹事・甲府RC)

稲葉良弥第2分区分ガバナー補佐(三島RC)

大庭治美君(ガバナー補佐事務局・三島RC)

出 席 報 告

	出席総数	出席率	メークアップ	修正出席率
前々回	27/34	79.41%	30/34	88.24%
今回	32/35	91.43%	会員総数	35名
欠 席 者	あなたが見えなくて残念でした。			

内田君、杉山(順)君、望月君

ガバナー挨拶

国際ロータリー第2620地区ガバナー 高野孫左エ門君



こんにちは

私は、生まれたときから孫左エ門ではありません。約2年半前に生前襲名ということで、結果として裁判所から判決をいただいで改名しました。生まれてはじめて貰った判決。これからは貰わないように生きていこうと思っています。「敵に塩をおくる」という言い伝えがあります。その言葉が生まれた由来が、我が家業である「吉字屋」の誕生に深く関わっております。

山国の甲斐、武田領下にあった信濃の領民は、生活の必需品である塩の供給を得られず、塩飢饉で困窮した事は言うまでもありませんが、この窮状を見た越後の上杉謙信は、義をもって越後産の塩を送る事にし、と伝えられています。この際、信玄の命を受け越後産塩の取り引きに使いしたのが塩屋孫左エ門(初代)です。この務めを果たし、国内の塩飢饉を救った活躍に対し、信玄公より当時の甲斐の国の通貨「甲州金」の裏刻印である「吉」の字を屋号として贈られ、「吉字屋」が誕生し、現在まで孫左エ門の名が受け継がれてきております。塩・油・石油と扱ってき、私の代では太陽光発電システムの導入・販売等さまざまな事業に携わってきております。

地域の中で、自分自身が出来事を見つけ、これから必要とされるもの、今現在必要とされるものをしっかり地域の皆様にお届けするのが「吉字屋」の仕事だと思っております。

ロータリーが何故107年も国の体制も、政治の仕組みも、文化も民族も宗教も違う世界に広がって続いているのでしょうか？国際社会は、日々変化しております。ロータリーはこの変化を認識して、対応し、なおかつ政治や宗教には触れずにしてそれぞれの個を大事にしてきたからだと思えます。ポール・ハリスが何故ロータリーを作ったかという、不況の中、ほんとに信頼できる仲間が欲しいと思い、3人の友人(異業種)と最初の会合を開きました。このことから例会がいかに大事かという事が解ると思えます。

皆様方は、その地域で業種を代表する一人ひとりが集まっています。自分の考えていること、不安に思っていること、困っていることを安心して語れる仲間がいるならば、同業者がいない中、違うアイデア・新しい考え方を身につける事ができる。これが一業種一人の原則が生み出す例会の魅力ではないでしょうか。

100年経過したロータリーが新しい100年をどのようにその歩みを重ねていくのか。今まさに問われているのではないのでしょうか。

この地域社会の中で、それぞれのクラブの特性を明確にして、周りから期待され、それに答えていくクラブであるためには、どうしたらいいか。会長・幹事を中心にして3カ年くらいのスパンで考え、取り組みを進められるようお願いし、ご期待申し上げます。

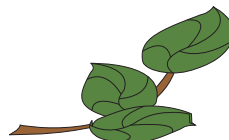


PHOTO GALLERY

